

「第 2 回全国海の再生・ブルーインフラ賞」授賞取組の決定について

「第 2 回全国海の再生・ブルーインフラ賞」^(※)には全国各地から 17 件の取組の応募がありました。応募いただきました取組について審査委員会での厳正なる審査を行った結果、下記の取組を国土交通大臣賞、みなと総研賞にそれぞれ決定しました。授賞取組の概要は添付資料をご覧ください。

授賞式は、2 月 28 日に開催される「第 19 回海の再生全国会議」(於：中電ホール (名古屋市東区東新町 1 番地)) に合わせて行います。

(※) 全国海の再生・ブルーインフラ賞

我が国の海辺空間の環境再生、普及啓発、青少年の育成のほか、ブルーインフラ (藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物) の保全・再生・創出を推進し、海辺の環境改善、地域社会の活性化、カーボンニュートラル等に貢献する活動の実績と成果がある者 (市民団体や民間団体等) の取組を称えることで、我が国の経済・文化の中心である港湾の貴重な海辺空間がより豊かに次世代に引き継がれること、また、カーボンニュートラルへの貢献を目的としたブルーインフラの拡大に寄与することを目的とし、令和 5 年度に新たに創設した賞です。

【主催】一般財団法人 みなと総合研究財団 【後援】国土交通省

●国土交通大臣賞 (1 取組)

取組名：佐久島の海を守る～子どもたちが主体で行うアマモの保全活動～

応募者：愛知県西尾市立佐久島しおさい学校

授賞理由：アマモ保全活動を学校の教育課程の中の「総合的な学習の時間」に位置付け、長年にわたり継続的に、生徒が全学年でアマモの保全活動に関することを学べるようにしている点や、アマモ保全活動が島の未来につながることを意識して取り組んでいる点などを評価した。

●みなと総研賞 (2 取組)

取組名：岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

応募者：岩手県洋野町

授賞理由：J ブルークレジット®の販売によって得られた収益を活用し、地域独特の資産を活用した活動の持続可能性を確保しようとしている点、地域と企業が連携して藻場の環境改善につなげる技術開発に取り組んでいる点などを評価した。

取組名：関西国際空港 豊かな藻場環境の創造

応募者：関西エアポート株式会社

授賞理由：空港島の建設時から豊かな藻場環境の創出を目指し、モニタリングを長年にわたり継続的に実施し、得られた知見をもとに藻場の生息する環境の変化に対応した保全活動を着実にやっている点などを評価した。

【問い合わせ先】

一般財団法人 みなと総合研究財団 青山、石塚

TEL:03-5408-8291 E-MAIL:wavemaster@wave.or.jp

佐久島の海を守る ～子どもたちが主体で行うアマモの保全活動～

応募者：愛知県西尾市立佐久島しおさい学校

協力者・関係者：西尾市佐久島振興課、島を美しくつくる会、佐久島しおさい学校、佐久島保育園、佐久島観光の会、愛知教育大学、三谷水産高校、一色高校、日本郵船、旭運輸、人間環境大学

□取組概要

- ・本校のある佐久島では、2002年に「きれいな海にして魚を増やしたい」という生徒の思いからアマモの保全活動が始まり、22年間子どもたちが主体となりこの活動を受け継いでいる。
- ・アマモの保全活動の年間の計画(右の図)を作成し、子どもたち主体で以下のような活動している。
- ・活動の成果を、島内外の発表会、西尾市の広報、愛知県のシンポジウム等で発信している。
- ・2025年1月、Jブルークレジットに認証される。



子どもたちによるアマモの説明

月	活動内容
1	追究テーマを考える
2	追究テーマの決定
3	アマモTシャツの作成
4	しおかぜ参観日
5	アマモの種取り アマモボランティアの準備
6	アマモボランティア アマモの授業
7	生き物調査
8	夏休み
9	アマモの生態調査
10	アマモ活動のまとめ
11	ゾステラマットの設置
12	しおかぜ学習発表会



名古屋港水族館での発表



アマモTシャツ



ゾステラマットの設置



アマモ場の生き物調査



アマモの種取りの説明

島・地域・行政

子どもたち

専門家



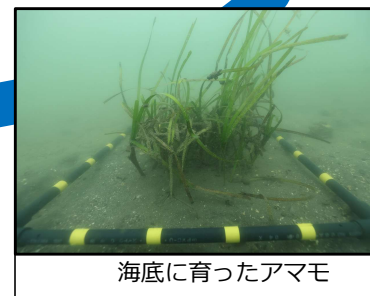
12月のしおかぜ学習発表会



アマモボランティア



理科のアマモの授業



海底に育ったアマモ



アマモの種を取り、冷蔵庫での保存

岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

応募者：岩手県洋野町

協力者・関係者：洋野町ブルーカーボン増殖協議会

(種市漁業協同組合、洋野町漁業協同組合、小子内浜漁業協同組合、
洋野町、住友商事(株)、住友商事東北(株))



プロジェクトの概要：

洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約1万5千人の町。三陸地方に見られるリアス式海岸と異なり、湾入部がない南北の海岸線約20kmに沿って、断続的に平坦な岩盤(種市層)が平均150m沖まで張り出しています。洋野町では、約50年前から、岩盤に溝を掘り、ウニやアワビ漁に利用してきました。それが増殖溝です。

プロジェクトの特徴・PRポイント：

増殖溝178本の総距離は17.5km、幅は約4m、深さは約1mにわたり、干潮時でも波力により新鮮な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥に耐え、生育しやすい環境を創り出しています。

増殖溝やその周辺で育った海藻は、潮の干満により流れ藻として海に流出し、CO2を海底に固定することに貢献してきました。また、増殖溝によって、身入りの良い高品質なキタムラサキウニが豊富に採れるようになり、ウニ漁と藻場の保全、即ち気候変動対策を両立させる持続可能な漁業が受け継がれてきました。

今回のクレジット販売により得られた資金は、洋野町ブルーカーボン増殖協議会が中心となり、気候変動対策の更なる発展のために活用していきます。



増殖溝 遠景



磯掃除 (ツブ貝の駆除)



ウニの森づくり 植樹祭



洋野町ブルーカーボン増殖協議会

協力者・関係者：大阪府、阪南市、大阪府漁業協同組合連合会、
大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)

関西国際空港について

- 1994年9月に開港(開港30周年)
- 建設の原点「公害のない、地域と共存共栄する空港づくり」
- 大阪湾南東部 泉州沖約5kmの沖合に建設した海上空港(水深約20m)



関西国際空港の全景

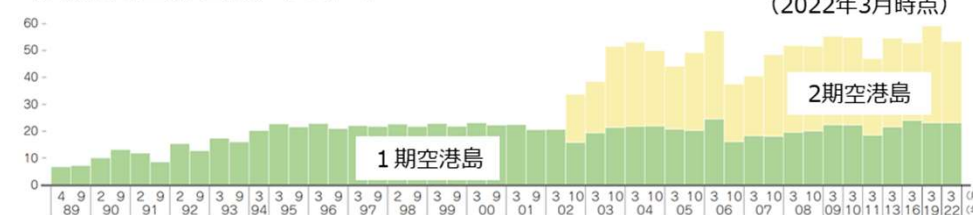


ガラモ場に集まるメバルの幼稚魚

関西国際空港の藻場

- 護岸総延長(約24km)の約9割は「緩傾斜石積護岸」
- 海藻着生総面積(藻場面積)は、54ha
- 空港島周辺には藻場を中心に多種多様な生き物が生息

【海藻着生総面積 (ha)】



プロジェクトの特徴

- 1988年空港島造成時点から藻場造成を行い、約35年間、継続してモニタリング調査を実施
- 調査結果を踏まえ、藻場環境の変化や護岸の沈下・越波対策等の外的環境の変化に対応した藻場の再生・保全対策を実施
- 周辺自治体と協働して、海域環境の保全活動を実施(藻場の再生・創出、子供たちへの環境教育、情報発信)
- ブルーカーボンとして、脱炭素社会に貢献(2017~2021年度5か年のCO2吸収量: 103.2 t-CO2)
- 自然共生サイト認定、30by30目標・生物多様性保全に貢献



大型海藻の母藻の移植・設置



保護網の中で育つカジメ



周辺自治体海域への海藻移植時の環境学習



小学生を対象とした海上から見る空港ツアー



地元小学校への出張授業



関西国際空港内環境関連展示ブース